

全国ユース 環境ネットワーク

第8回全国ユース環境活動発表大会
全国大会&地方大会の内容を
掲載しています。
本誌・中面をぜひご覧ください。

第8回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会出場16高校 活動の様子・テーマなど



北海道羽幌高等学校



山回県立下関西高等学校化学2班



愛知県立佐屋高等学校



岩手県立花巻農業高等学校



北海道主税高等学校



宮城県農業高等学校



群馬県立藤岡北高等学校



長野県佐久平総合技術高等学校



愛媛大学附属高等学校



熊本県立熊本農業高等学校



高校生エシカル推進委員会



山回県立下関西高等学校公民班



大分県立大分商業高等学校



愛媛県立長浜高等学校



大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程



兎華学園中学校高等学校

第8回 全国ユース環境活動発表大会

令和5年2月4日(土)～2月5日(日)、「第8回全国ユース環境活動発表大会 全国大会」が開催されました。
3年ぶりのリアルな会場での開催。全国から選ばれた16高校(団体)が出場しました。
大会冒頭、西村明宏環境大臣よりビデオメッセージによるご挨拶をいただきました。

ご挨拶

環境大臣

西村 明宏



皆さん、おはようございます。環境大臣の西村明宏です。
高校生の皆さん、「第8回全国ユース環境活動発表大会全国大会」への出場、おめでとうございます。
また、大会の開催に当たりご尽力いただいた、環境再生保全機構と国連大学の皆様、後援・協賛をいただいた企業の皆さまに、心から感謝申し上げます。
多くの若い皆さんたちが、環境問題に関心を持ち、活動してくださっていることに、環境大臣として大変心強く感じています。
皆さんがそれぞれ、毎日の暮らしの中で身近な環境問題に関心を持って、仲間とともに知恵を出し合い、高校生ならではの発想で解決策を提案していただきました。
自ら問題を見つけ、仲間を集ってともに考え、将来のことを考えることは、これから社会人になる高校生の皆さんにとって大きな糧となると思います。
環境問題は、将来に渡って取り組んでいく必要があります。若い皆さんに関心を持ち続けていただき、社会人になっても、環境問題の解決に力をお貸しいただけることを期待しています。
全国各地で素晴らしい行動を行っている全国の高校生の皆様、生徒に寄り添い、活動を支えてくださっている先生・保護者の皆さま、地域の皆さまに、感謝の気持ちをお伝えして、私からのメッセージとさせていただきます。
皆さん、活動発表、大いに頑張ってください。

第8回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会 記念写真





第8回 全国ユース環境活動発表大会 全国大会

〈実施概要〉

日程 令和5年2月4日(土)～2月5日(日)

会場 ステーションコンファレンス東京

主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会
(環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)

後援 読売新聞社

協力 環境省地方環境パートナーシップオフィス(EPO)/地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)/ESD活動支援センター

協賛 キリンホールディングス株式会社/協栄産業株式会社/SGホールディングス株式会社/株式会社タニタ



受賞校のみなさん、おめでとうございます！

昨年12月、全国8地方で地方大会が開催され、全国大会出場の16高校(団体)が選ばれました。全国大会に出場した高校(団体)は、いずれの活動内容も発表もすばらしく、審査を経て環境大臣賞をはじめすべての出場高校に賞が贈られました。表彰された16高校の活動をご紹介します。

環境大臣賞

宮城県農業高等学校 作物部門

#ZEROマイプラ2

地元の砂浜には稲作で使われるプラスチック肥料の5mm程の残骸が大量にあり、海洋汚染を起していました。ウレアホルム肥料を使うことで、プラスチック肥料を使わない栽培法の構築に成功。商品化して通常よりも安くお米を作ることができます。プラスチック肥料を使わないことがJA全農で決定し、日本のプラスチック肥料をゼロにする活動に繋がったのです。



環境再生保全機構 理事長賞

群馬県立藤岡北高等学校 環境工学部

小川の未来を考える～地域連携・協働によるヤリタナゴ保護活動～

次世代へきれいで魚のたくさん生息できる豊かな環境を残すことが目標。市の天然記念物であるヤリタナゴの保護活動を地域と連携・協働で実施している。また、高校にタナゴビオトープを作成し、幼児や小中学生対象に年間約300人の環境教育に活用している。更に「ヤリタナゴ懇談会」を立ち上げ、啓発活動によりヤリタナゴ知名度は50%以下から80%に向上した。



国連大学サステナビリティ高等研究所 所長賞

熊本県立熊本農業高等学校 養豚プロジェクト

廃棄豚脂の有効活用に関する研究 ～養豚業におけるゼロエミッションへの挑戦～

食品廃棄物を利用したエコフィードの研究活動を続けてきましたが、本校で豚肉の豚脂を廃棄していることに気づき、廃棄豚脂の有効活用を図り廃棄ゼロを目指した活動をする事にしました。様々な挑戦の結果、市販に比べ1.7倍洗浄力が高い洗濯用石鹸が出来上がりました。養豚業におけるゼロエミッションを達成し、少しでも持続可能な生活を実現させたいです。



読売新聞社賞

高校生エシカル推進委員会

気候変動×楽しさ ～私たちが行動する意味～

気候変動の影響を一番受けるのは私たちの世代なので、私たちが中心となって行動を起こしていこうという理念のもと、イベントの企画や小中学校への講演会活動、ブース出展などを全て自分たちで考え、行動しています。兵庫県内を中心に全国に仲間があり、気候変動を解決したい想いは熱く、発信は楽しく。1人の100歩より100人の1歩を大切に活動しています。



第8回 全国ユース環境活動発表大会

受賞校のみなさん、おめでとうございます！



高校生が選ぶ特別賞

長野県佐久平総合技術高等学校 チームさくさけ

カスを価値に！～未来へ佐久酒粕プロジェクト～

私たちは、地元酒造と連携した日本酒造りに取り組んでいます。その中で、日本酒造りの副産物として出る酒粕の需要が低迷していることを知りました。そこで、酒粕の需要拡大と食品ロスの削減を目的に活動をスタート。今年度は、新たに地元ラーメン店とコラボして酒粕を使ったラーメンを開発。「佐久ラーメン甲子園」で優勝するほど自信の1杯が完成しました！



先生が選ぶ特別賞

北海道士幌高等学校 環境班

持続可能な地域環境を目指して～次の100年へ、地域を守る防風林造成～

士幌町がある十勝地域は、十勝風と呼ばれる突風の風害から農地を守る防風林の更新が課題となっています。この課題を解決するために、農家への意識調査活動や樹種の違いによる防風林調査活動、地域資源創出活動を実施しています。次の100年を次世代へ引き継ぐためにも、農業や環境、文化の調和を図り、これからも持続可能な地域環境を目指し活動を続けます。



協賛企業特別賞

晃華学園中学校高等学校 Banana to The Futures

バナナペーパーを普及するためのプロジェクト

バナナペーパーを普及するための活動を行っています。ポスターや動画を作成して文化祭にて展示、企業と連携してバナナペーパーを題材とするSDGs教材を作成等です。また他校との活動発表会に参加したり、小学生向けのワークショップを企画・実施しました。日常生活で紙を使う際の選択肢の一つにバナナペーパーを考えてもらえるようにしていきたいです。



SDGs活動特別賞

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程 エコ・プロジェクト部

脱炭素！地球温暖化防止プロジェクト

「太陽光発電」に取り組み、「ポータブル充電機」に蓄電をして、「バイオディーゼル発電機」との組合せで、地域の環境イベントなどで、コンセントを使わずに電気の供給をしています。また、海水や河川やプールの水などを飲料水に出来る浄水（造水）装置もプラスチックゴミで作った油や天ぷら油で稼働出来るように改良しました。環境啓発活動もおこなっています。



プレゼンター・審査委員



プレゼンター
上田 康治
環境省
総合環境政策統括官



審査委員長
萩原 なつ子
独立行政法人国立女性教育会館
理事長/立教大学 名誉教授



審査委員
河村 玲央
環境省 大臣官房
総合政策課 環境教育推進室長



審査委員
小辻 智之
独立行政法人環境再生保全機構
理事長



審査委員
竹本 明生
国連大学サステイナビリティ
高等研究所
プログラムヘッド



審査委員
東 武雄
読売新聞東京本社
教育ネットワーク事務局
事務局長

講評：審査委員長 萩原なつ子氏

身近な地域にある課題に目を向けて、その眼差しの暖かさ或いはそのシャープさに感銘を受けました。

また、国内だけではなく世界にも目を向けていらっしゃる素晴らしい視点、行動力。皆さんは確実に社会を変えている、という風に感じました。高校を卒業した後も、是非継続して頑張っていたいただきたいと思います。



審査委員
藤川 宏
キリンホールディングス株式会社
執行役員 CSV 戦略部長



いずれも素晴らしい活動です。これからもがんばってください！

優秀賞 北海道羽幌高等学校

SBFプロジェクトチーム

羽幌町に飛来する海鳥と今後の課題

私たちは一年生で年2.5時間、生物調査や海岸清掃などを行い、環境活動について学ぶ授業を受けています。並行して、私たちプロジェクトチームは羽幌町の海鳥の保護について深く探求しています。

環境省の方々や絶滅危惧種である海鳥の数をどう守り、増やせるかを協議したり、イベントでの啓発活動やボランティア活動などに積極的に参加し、多様な生物が共存できる社会に少しでも貢献できるように頑張りたいです。



優秀賞 岩手県立花巻農業高等学校

ソーセージ研究班

サスティナブルな地域創生児

～ホップの抗菌作用を活かした商品開発に関する研究～

北上市の特産物である二子芋の頭芋が毎年3トンも廃棄されている。その有効利用をソーセージでできないものかと「長期保存」に視点を置き、ホップの毬花の抗菌力を持つとされているルプリンを抽出し製造。36日間の賞味期限をつけられた。

食品ロスを抑えるサスティナブルな商品として期待を持っている。



優秀賞 愛知県立佐屋高等学校

科学部

愛知県愛西市内用水路に生きるカメ類

アカミミガメは地域に侵入すると、食性から生態系を脅かします。私たちは、水路内に生息するカメ類の季節変動や採捕個体の雌雄判別・年齢・体長などを調べるとともに、駆除後の処理方法も考えました。また行動特徴も調査することにし、カメの甲羅に小型カメラを取り付け水路やため池に放し、どのようにカメが行動するのか追い続けました。撮影された映像を見て、カメの目線で見える外の世界が分かってきました。



優秀賞 山口県立下関西高等学校

公民班

下関市風力発電導入大作戦～脱炭素社会の実現に向けて～

風力発電を導入するために、地域住民の同意を得るには何が必要かを探究しています。風力発電の導入を後押しすることで、脱炭素社会の実現に貢献することが目標です。風力発電建設の反対運動に参加された市議会議員の方にインタビューをしたことで、住民の反対理由やコスト面、国防問題をもとに考えることができました。下関市を環境にやさしい持続可能な街にするために、これからも探究を続けていきます！



優秀賞 山口県立下関西高等学校

化学2班

カイロを変えろ!!

冬に多くの人を使うカイロ。学校で毎日大量に出るチョークの粉。私たちはこの二つに注目し、新しいカイロを作ることでSDGsに貢献できると考えました。そこで、カイロに使われている活性炭をチョークの粉に変えて実験を行い、実験の結果、チョークは活性炭の代わりになることを立証しました。これからは、チョークを使って長時間一定の温度を保つカイロを作ることができるよう、改良を重ね、実用化を目指します。



優秀賞 愛媛大学附属高等学校

理科部プラガールズ

瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の実態と対策に向けた啓発活動

「プラスチックを上手に使う生活を続けながら海の環境も守っている未来」を目指して活動しています。

瀬戸内海は生活プラごみ以上に地元の漁業や農業に由来する産業系プラスチック汚染が深刻で、海洋生分解性プラスチックの開発・普及が必要です。そのための調査と研究、情報発信や啓発を進めています。



優秀賞 愛媛県立長浜高等学校

チーム530

カワイいのぼり旗でゴミを減らそう！ えひめゴミ0プロジェクト

ゴミ問題を地域の課題と捉え、捨てられるゴミを減らすことを目標に活動しました。本校をモチーフにした漫画の主人公をのぼり旗にデザインし公園に立てることで、捨てられるゴミの量を劇的に減らすことに成功しました。この取組は現在も継続しており、自主的な美化活動が始まるなど活動の輪が広がっています。



優秀賞 大分県立大分商業高等学校

商業調査部

食品ロスさせない連携

～規格外トマトを活用した商品開発～

「食品ロス削減」をテーマに、本来であれば廃棄されてしまう規格外トマトを活用した商品開発に挑戦し、オリジナル商品「とまドレ・とまソース・とまみそ」を開発しました。ごみが商品として生まれ変わる「食リサイクル」を実現した商品で、未来の地球環境を、みなさんと一緒に創る商品でもあります。



フォーラムの目的は、『高校生同士の交流』。3年ぶりの会場開催でフォーラムは大いに盛り上がりました。

全国ユース環境活動発表大会全国大会の第1日目、出場校16高校が参加して全国ユース環境フォーラムが開催されました。フォーラムの目的は、『交流』。主催者よりそれぞれの事業説明の講演の後、全国から参加した高校生同士がグループワークを実施し交流の機会が作られました。参加した高校生は、久しぶりのリアルな交流で、活発な意見交換が繰り広げられました。



全国ユース環境フォーラム コンテンツ

国連大学サステナビリティ高等研究所
プログラムヘッド **竹本 明生** 氏

講演 「地球環境へのユースの貢献」

内容：ユースとSDGs、ユース支援の本質、COP27でのユースの活躍 など

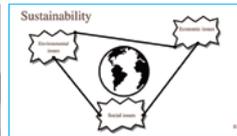


国連大学学生

Alexandra Marie N. Sumaway 氏

講演 「国連大学学生の取り組み事例」

内容：世界の環境問題、マイクロプラスチック問題、持続可能な社会に向けて



環境省 大臣官房 総合環境政策課 環境教育推進室
高橋 尚子 氏

講演 「環境省が目指す2030年の姿」

内容：環境問題の振り返り、2030年ターゲット、脱炭素社会、循環経済、分散・自然共生社会



独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金課長
石川 倫 氏

講演 「地球環境基金の取組みについて」

内容：NGO、NPOの環境活動事例紹介、全国ユース環境ネットワーク促進事業



司会進行

上智大学環境活動サークル
「Green Sophia」

帆井 彩夏 さん



団体紹介

地球環境パートナーシップ
プラザ(GEOC)

鈴木 良壽 氏



一般社団法人ESD TOKYO 共同代表理事
松井 晋作 氏

イベント 「ワークショップ・交流イベント」

内容：人生の考え方、過去の自分を振り返る、キャリアってどう考える



全国ユース環境フォーラム フォトアルバム (抜粋)





フォーラム「大学生・大学院生によるトークイベント」

大学生・大学院生によるトークイベント

「高校卒業後にできる環境活動 ～現役大学生・大学院生と話してみよう～」

2月5日（日）のランチタイムでは、地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）の次世代意見交換会メンバー2名から、「高校卒業後にできる環境活動」というテーマで、出場校の高校生に向けた講演会が開催されました。

高校生の皆さんからは、「個人・企業・団体としての活動方法を学び、自分の高校卒業後の活動の選択肢が広がった」、「将来の進路を考え始め、大学でもこのような活動を続けたい、環境のために自分たちのできることをしたい」と思っていたところ、大学生や院生の方々からお話を聞いたことは将来への希望につながった」などの感想を頂きました。



講演1 和田 優希 さん

奈良女子大学 2年生。Climate Youth Japan（政策提言チーム、農水省官民円卓会議 等）所属。気候変動問題について若者への啓発活動、関係省庁・企業へ働きかけを行う中で、「団体」に所属して活動することの特徴や良さについてお話を頂きました。



講演2 山田 修土 さん

名古屋大学 大学院生命農学研究所 博士課程2年。株式会社友楽不動産 新規事業『LEAF』代表。「個人」で取り組める様々なアクションの紹介や、事業を起こしたきっかけ、また「企業」として社会に与えられる影響などについてお話を頂きました。



司会 石井 博子 さん

創価大学 法学部 2年。高校3年次よりできること会議に1期・広報として参加し、社会問題をテーマにオンラインイベントを開催。『思いをカタチにする人を増やし世界の明日を変える』活動をしている。



▶ イベントの
全内容は
YouTubeで
ご覧頂けます！



環境の総合情報サイト「環境らしんばん」

持続可能な社会づくりに関する情報や、環境イベント等を発信していただくためのウェブサイトです。

団体登録をしていただくと情報を掲載できます。情報収集にも、広報にもご利用ください！

学生団体など、任意団体団体登録も大歓迎です。



地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）

<http://www.geoc.jp/>

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-53-70 国連大学ビル1F

お問い合わせフォーム：<http://www.geoc.jp/contact/>

GEOCは、ユースの環境活動を応援しています。





第8回 全国ユース環境活動発表大会にご応募、ご参加いただきありがとうございました。

この発表大会にご参加いただき他方々の『声』をご紹介します。
みなさまの『声』をお読みいただき、ぜひ来年の活動の励みにしてください。

全国大会出場 高校生の感想 (アンケートより抜粋)

質問 今回の発表大会に参加して、また他校の環境活動を実践している仲間との交流を通しての気付きや学び、参加して感じた自分の変化について教えてください。

- ◆他のチームの発表を見て、今後私たちのチームでも地域のつながりをさらに強める、具体的な活動を進めていくなどのアイデアが思い付きました。(北海道士幌高等学校)
- ◆2日しか会うことのないつながりでも、出会って思いを発表しあった仲間として、これからも自分たちの活動を頑張りたいと思った。またみんなと会いたいです。(岩手県立花巻農業高等学校)
- ◆他校は企業との連携や地元とのつながりを大事に活動していることが分かった。自分ももっと積極的に企業にプレゼン等を行っていくべきだと感じた。(児華学園中学校高等学校)
- ◆本当に様々な取組があるんだと、地方大会の時よりも実感した。また環境について人間心理がからんだりと思いもしない分野が混じってくるのが面白かった。(愛知県佐屋高等学校)
- ◆話す事についての自信ができました。自分では気づきえない考えをなさっている方がいて、自分にとって濃い時間になった。(大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程)
- ◆みんなが環境を良くしたいという思いが強く、自分もより意識が進んだ。「1人の100歩より100人の1歩」の100人の内の1人になりたいと思った。(山口県立下関西高等学校)
- ◆やはり全国(世界)には地域や興味に根付いたさまざまな研究があり、新たな視点で問題について考えるきっかけとなりました。(愛媛大学付属高等学校)
- ◆自分たちの未来を守るためには、自分で動いていくしかないということを改めて感じた。会場にいる皆から、環境を守る輪を広げていきたいと考えた。(大分県立大分商業高等学校)



発表風景
大分県立大分商業高等学校



地方大会 応援メッセージ (地方大会交流会より抜粋)

地方大会の情報はP9～P12に掲載

- ◆市立札幌開成中等教育学校 ⇒ 北海道大野農業高等学校
北斗市というコミュニティの中で、市や学校の協力を得て活動しているのが素晴らしいと思います。今日ここで発表したことで啓発活動なども進んでいけたら良いですね。
- ◆岩手県立遠野緑峰高等学校 ⇒ 宮城県志津川高等学校
海岸の生物調査と聞いて、最初は微生物などにふれるのかと思っていたら、アサリなど他の生き物(目に見える物)に注目して研究を進めていったことに感心を得ました。これからも頑張ってください。
- ◆千葉県立安房高等学校 ⇒ 東京都府中東高等学校
都心部での河川敷の自然環境は数少ない貴重なものだと感じました。必ずしも外来植物が悪い影響を与えるとは限らないことを知れてとてもためになりました。これからも継続した調査、頑張ってください。
- ◆岐阜県立八百津高等学校 ⇒ 福井県立大野高等学校
他の学校は、だいが難しかったけど大野高等学校様の発表はとても分かりやすかった。いろいろなSDGsの内容をやっていたので、すごいと思いました。海外にも支援してすごいです。
- ◆大阪成蹊女子高等学校 ⇒ 大阪府立みどり清朋高等学校
発表の中で「受賞歴なし、特別な資格なし」とおっしゃっていましたが、私たちも同じです。生徒である私たちの生活の中で何気ない気づきから活動に取り組んでいます。受賞歴も資格も今はまだありませんが、お互いこれからも頑張りましょう!!
- ◆岡山県立笠岡高等学校 ⇒ 岡山学芸館高等学校
アマモの培養の失敗をしっかりと分析して、次につなげるような研究を行ってとても素晴らしいと思いました。今後の活動も楽しみにしています。頑張ってください。
- ◆愛媛県立松山北高等学校 ⇒ 香川県立多度津高等学校
建築といった専門性の高い視点から環境活動に取り組んでいて、すごく面白いなと感じました。また、積極的に様々な活動をしていることが動画を通して分かり、もっと知りたいなと思いました。これからもお互い頑張りましょう。
- ◆福岡工業大学附属城東高等学校 ⇒ 博多女子高等学校
とても興味深い発表でした!身近にゴミとして出るカキの殻を肥料にしたり、食品として出したり、さらに何個も売れているのですごくいいと思います。これからも活躍に期待しています。



協賛企業 応援メッセージ 協賛企業 >>> 高校生のみなさんへ

タスキをつなげよう

卒業した先輩方の想いを受けとめ、着実に活動を進化させ、後輩に引継ぎ、ポジティブなインパクトを与え続ける皆さんの活動は、駅伝のタスキのようになっていくことでしょう。今後とも応援していきたいと思ひます。

よろこびがつなく世界へ



キリンホールディングス株式会社

未来は皆さんの手で

皆さんの新しい発想と着実な活動の全てが素晴らしい未来に繋がっています。これからも全国の仲間との絆を深めながら、そして、情熱を持ち続けながら、目標に向かって活動を頑張ってください。応援しています。



協栄産業株式会社

純粋な思い 伝わる活動

自分が暮らす地域、そして広く環境・社会に貢献したいという純粋な思いの詰まった活動内容が伝わってきました。今後、皆さんの思いが浸透し、全国ユースの輪がさらに広がることを期待しています。



Grow the new Story.

新しい物語で、新しい社会を、共に創る。

SGホールディングス株式会社

がんばれ高校生

地球環境問題への取り組みは待たなしです。皆さんの活動には頭が下がります。こうした着実な取り組みが、いずれ大きなウェーブになると信じています。未来を創るのは皆さんです。がんばれ高校生。



株式会社タニタ





熱さ伝える 仲間の輪

読売新聞教育ネットワーク記者 鷺見 一郎

出場校のみなさんの活動内容を紹介する「読売SDGs新聞」の編集・制作を担当しています。この冊子とともに、今回大会を伝える新聞が届いているはずですが、前回、前々回の大会はコロナ禍により、残念ながら、文章と動画での発表でしたが、3年ぶりに対面形式で行われた今回大会では、思いの丈をぶつけることができたようです。全国大会でも地方大会でも、みなさんの熱意が取材している側に伝わってきました。

環境大臣賞に輝いたのは宮城県農業高校でした。プラスチックを使った肥料から、プラスチックの殻が排出される問題に取り組みました。

この肥料を使わない栽培方法を開発することで、問題解決の答えを導き出しました。日本の主食と言われるイネの栽培に関わる重大懸案に正面から取り組み、これまで畑作で使われていた肥料に着目。代替肥料としての可能性を探りました。この肥料は効き目だけでなく、コスト面でもプラスチックを使った肥料よりも安く上がるなど、満点と言っていい解決策ではないでしょうか。

プラスチック肥料については、JA全農が2030年までに、プラスチックを使った肥料をゼロにする目標を掲げています。日本の根幹・稲作に関わる宮城県農業高の取り組みは、社会貢献の度合いがきわめて大きいと言えるでしょう。

環境再生保全機構理事長賞の群馬県立藤岡北高校は、学校が所在する藤岡市の天然記念物ヤリタナゴの保護活動を展開。保護活動の内容をそのまま、幼児や小中学生に対する環境教育に活用するなど、無駄なく環境保全活動を進めています。また、ヤリタナゴ懇談会をつくり、地域を巻きこむ形で活動を盛り上げました。

国連大学サステナビリティ高等研究所長賞の熊本県立熊本農業高校は元々、養豚の飼料に食品廃棄物を使うなどの取り組みをしていました。出荷の際に大量廃棄される脂に着目。廃棄ゼロを目指し、試行錯誤の末、洗濯用せっけん作りになどり着きました。その後、店舗に商品として置かれているそうです。

読売新聞社賞の高校生環境エシカル推進委員会は、学校の枠を超えて、仲間の輪を広げる独特の活動形式が目を引きました。気候変動に対して行動を起こそうと、環境漫才や環境ラップで楽しさを織り込んだ啓発活動を展開。全国に活動を展開する行動力が評価されました。

高校生が選ぶ特別賞の長野県佐久平総合技術高校は昨年に続き、酒かすの活用に取り組み、今回はラーメン作りに取り入れました。先生が選ぶ特別賞の北海道士幌高校は、突風の風害から農地を守るための防風林の維持・更新に正面から向かい合いました。さらに今大会から新設された協賛企業特別賞、SDGs活動特別賞を、晃華学園中学校高等学校、大阪府立堺工科高校がそれぞれ受賞しました。

SDGsの実践活動に取り組む児童・生徒の皆さんを応援するため、読売新聞では「SDGs@スクール チャレンジ校」(チャレンジ校)という取り組みを展開しています。キーワードは「じぶんごとから はじめよう」。世界規模、地球規模の問題を、「他人ごと」として考えるのではなく、「じぶんごと」としてとらえるお手伝いをすることで、SDGsのゴールを目指す皆さんの力になりたいと考えています。

毎月第一水曜日に読売新聞朝刊に掲載している「SDGs@スクール」のコーナーでは、「チャレンジ校」の皆さんの「じぶんごと」の取り組みを幅広く取り上げることで、ほかの児童・生徒の皆さんの参考にしてもらいたいと考えています。ぜひ、みなさんの「じぶんごと」を教えてください。「チャレンジ校」に参加すると、年2回発行するタブロイド新聞形式の教材「読売SDGs新聞」を、希望する児童・生徒の人数分お届けします。登録は無料で、随時受け付けています。



(<https://form.qooker.jp/Q/auto/ja/schoolchallenge2022/sdgs/>)



第8回 全国ユース環境活動発表大会

3年ぶりの
会場開催

2022年12月、全国8か所で「第8回 全国ユース環境活動発表大会 地方大会」が開催されました。たくさんの応募をいただき、書類選考を経て全国合計85高校が地方大会に出場しました。地方大会（新型コロナウイルスの感染防止対策をとり、実施しました。）



北海道地方大会 記念写真



東北地方大会 記念写真

北海道地方大会

- 日程：2022年12月4日（日）
- 会場：TKPガーデンシティPREMIUM札幌大通り



地方大会最優秀賞
北海道士幌高等学校

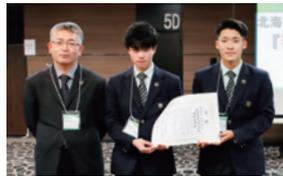


地方大会最優秀賞
高校生が選ぶ特別賞
審査委員特別賞
先生が選ぶ特別賞
協賛企業特別賞

北海道士幌高等学校 **環境班**
北海道羽幌高等学校 **SBFプロジェクトチーム**
北海道美幌高等学校 **環境改善班**
市立札幌開成中等教育学校 **PlaCler**
北海道大野農業高等学校 **ボランティア部・果樹専攻班**



高校生が選ぶ特別賞
北海道羽幌高等学校



審査委員特別賞
北海道美幌高等学校



先生が選ぶ特別賞
市立札幌開成中等教育学校



協賛企業特別賞
北海道大野農業高等学校

東北地方大会

- 日程：2022年12月11日（日）
- 会場：TKPガーデンシティ仙台



地方大会最優秀賞
宮城県農業高等学校



地方大会最優秀賞
高校生が選ぶ特別賞
審査委員特別賞
先生が選ぶ特別賞
協賛企業特別賞
SDGs活動特別賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞

宮城県農業高等学校 **作物部門**
岩手県立花巻農業高等学校 **ソーセージ研究班**
青森県立名久井農業高等学校 **環境研究班**
青森県立三本木農業恵拓高等学校 **チーム・COW飼う'S**
山形県立山形西高等学校 **放課後実験倶楽部**
宮城県志津川高等学校 **自然科学部**
青森県立名久井農業高等学校 **環境システム科 草花班**
青森県立むつ工業高等学校 **設備・エネルギー科 地中熱融雪研究班**
岩手県立遠野緑峰高等学校 **生産技術科 野菜・果樹研究班**
秋田県立新屋高等学校 **理科研究部**
秋田県立能代松陽高等学校 **チーム松陽**
秋田県立大館鳳鳴高等学校 **化学部**
宮城県多賀城高等学校 **SS科学部ヤスデ班**



高校生が選ぶ特別賞
岩手県立花巻農業高等学校



審査委員特別賞
青森県立名久井農業高等学校



先生が選ぶ特別賞
青森県立三本木農業恵拓高等学校



協賛企業特別賞
山形県立山形西高等学校



SDGs活動特別賞
宮城県志津川高等学校

地方大会（北海道地方大会、東北地方大会） （関東地方大会、中部地方大会）



今回の大会は、3年ぶりの会場での開催。日頃から熱心に環境活動を実践している高校生からでは、環境活動の発表、交流会、表彰式が行われ、各会場ともに大変盛り上がりしました。

※長文のタイトルは、ユース事務局にて一部編集をして掲載しています。



関東地方大会 記念写真



中部地方大会 記念写真

関東地方大会

- 日程：2022年12月18日（日）
- 会場：ステーションコンファレンス東京



地方大会最優秀賞
高校生が選ぶ特別賞
審査委員特別賞
先生が選ぶ特別賞
協賛企業特別賞
SDGs活動特別賞
 優秀賞
 優秀賞
 優秀賞
 優秀賞
 優秀賞
 優秀賞

群馬県立藤岡北高等学校 **環境工学部**
 晃華学園中学校高等学校 **Banana to The Futures**
 東京都立国際高等学校 **環境科学**
 オイスカ浜松国際高等学校 **環境SDGsプロジェクト**
 栃木県立矢板東高等学校 **リベラルアーツ同好会**
 栃木県立真岡北陵高等学校 **食品科学研究部**
 群馬県立尾瀬高等学校 **理科部**
 千葉県立安房高等学校 **チーム あわわ**
 東京都立府中東高等学校 **生物部**
 東京都立南多摩中等教育学校 **SDGsミーティング**
 東京都立国分寺高等学校 **生物部・カラスバト班**
 静岡県立駿河総合高等学校 **US**
 静岡県立三島北高等学校 **STEM 植物班**



地方大会最優秀賞
群馬県立藤岡北高等学校



高校生が選ぶ特別賞
晃華学園中学校高等学校



審査委員特別賞
東京都立国際高等学校



先生が選ぶ特別賞
オイスカ浜松国際高等学校



協賛企業特別賞
栃木県立矢板東高等学校



SDGs活動特別賞
栃木県立真岡北陵高等学校

中部地方大会

- 日程：2022年12月11日（日）
- 会場：TKPガーデンシティPREMIUM名駅西口



地方大会最優秀賞
高校生が選ぶ特別賞
審査委員特別賞
先生が選ぶ特別賞
協賛企業特別賞
SDGs活動特別賞
 優秀賞
 優秀賞
 優秀賞

長野県佐久平総合技術高等学校 **チームさくさけ**
 愛知県立佐屋高等学校 **科学部**
 長野県上伊那農業高等学校 **昆虫班**
 福井県立若狭高等学校 **箸プラ**
 福井県立福井商業高等学校 **悩めるJRC部**
 愛知県立半田商業高等学校 **Total Progress**
 福井県立大野高等学校 **JRC「結」**
 福井県立若狭高等学校 **魚の鱗探究チーム**
 岐阜県立八百津高等学校 **自然科学部・SDGs班**



地方大会最優秀賞
長野県佐久平総合技術高等学校



高校生が選ぶ特別賞
愛知県立佐屋高等学校



先生が選ぶ特別賞
福井県立若狭高等学校



協賛企業特別賞
福井県立福井商業高等学校



SDGs活動特別賞
愛知県立半田商業高等学校



第8回 全国ユース環境活動発表大会

全地方大会
共通

主催：全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステイナブル）
 後援：読売新聞社 協力：地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ
 協賛：キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ



近畿地方大会 記念写真



中国地方大会 記念写真



近畿地方大会

- 日程：2022年12月18日（日）
- 会場：TKPガーデンシティ大阪梅田



地方大会最優秀賞

- 高校生が選ぶ特別賞
- 審査委員特別賞
- 先生が選ぶ特別賞
- 協賛企業特別賞
- SDGs活動特別賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞

- 高校生エシカル推進委員会 高校生エシカル推進委員会
- 大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程 エコ・プロジェクト部
- 京都府立宮津天橋高等学校 タンポポ発信隊
- 兵庫県立篠山東雲高等学校 自然科学部
- 兵庫県立播磨農業高等学校 オオヤマジソ班
- 大阪府立豊中高等学校能勢分校 チームSATOYAMA
- 大阪成蹊女子高等学校 生徒会執行部
- 大阪府立長尾高等学校 理科研究部 マイクロスケール実験開発チーム
- 大阪府立みどり清朋高等学校 地域貢献部
- 大阪府立富田林高等学校 水質班
- 兵庫県立豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ
- 兵庫県立伊川谷高等学校 ボランティア部
- 奈良育英高等学校 生徒会・ユネスコ委員会



地方大会最優秀賞
高校生エシカル推進委員会



高校生が選ぶ特別賞
大阪府立堺工科高等学校



審査委員特別賞
京都府立宮津天橋高等学校



先生が選ぶ特別賞
兵庫県立篠山東雲高等学校



協賛企業特別賞
兵庫県立播磨農業高等学校



SDGs活動特別賞
大阪府立豊中高等学校能勢分校

中国地方大会

- 日程：2022年12月26日（月）
- 会場：TKPガーデンシティ広島駅前大橋



地方大会最優秀賞

- 高校生が選ぶ特別賞
- 審査委員特別賞
- 先生が選ぶ特別賞
- 協賛企業特別賞
- SDGs活動特別賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞
- 優秀賞

- 山口県立下関西高等学校 公民班
- 山口県立下関西高等学校 化学2班
- 岡山県立笠岡高等学校 サイエンス部
- 岡山県立岡山一宮高等学校 ユネスコ部
- 岡山県立倉敷青陵高等学校 生徒会執行部
- 岡山県立岡山一宮高等学校 チーム階段
- 岡山県立玉野高等学校 海ごみ再利用研究チーム
- 岡山学芸館高等学校 結
- 出雲西高等学校 インターアクトクラブ
- 広島県立祇園北高等学校 理数コース
- 広島県立祇園北高等学校 科学研究部
- 山口県立下関西高等学校 化学1班



地方大会最優秀賞
山口県立下関西高等学校



高校生が選ぶ特別賞
山口県立下関西高等学校



審査委員特別賞
岡山県立笠岡高等学校



先生が選ぶ特別賞
岡山県立岡山一宮高等学校



協賛企業特別賞
岡山県立倉敷青陵高等学校



SDGs活動特別賞
岡山県立岡山一宮高等学校



地方大会 (近畿地方大会、中国地方大会、四国地方大会、九州・沖縄地方大会)



ピリティ高等研究所
(GEOC)、ESD活動支援センター



四国地方大会 記念写真



九州・沖縄地方大会 記念写真

四国地方大会

- 日程：2022年12月26日(月)
- 会場：レクザムホール(高松)



地方大会最優秀賞
高校生が選ぶ特別賞
審査委員特別賞
先生が選ぶ特別賞
協賛企業特別賞
SDGs活動特別賞
優秀賞

愛媛大学附属高等学校 理科部プラガールズ
愛媛県立長浜高等学校 チーム530
徳島県立徳島商業高等学校 校内模擬会社ComCom
愛媛県立松山北高等学校 愛顔グローバル部愛Landまつやま(興居島VT)
香川県立多度津高等学校 建築科
愛媛県立土居高等学校 情報科学部・ビジネスコース
愛媛県立小松高等学校 YST



地方大会最優秀賞
愛媛大学附属高等学校



高校生が選ぶ特別賞
愛媛県立長浜高等学校



審査委員特別賞
徳島県立徳島商業高等学校



先生が選ぶ特別賞
愛媛県立松山北高等学校



協賛企業特別賞
香川県立多度津高等学校



SDGs活動特別賞
愛媛県立土居高等学校

九州・沖縄地方大会

- 日程：2022年12月4日(日)
- 会場：TKP博多駅前シティセンター



地方大会最優秀賞
高校生が選ぶ特別賞
審査委員特別賞
先生が選ぶ特別賞
協賛企業特別賞
SDGs活動特別賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞
優秀賞

熊本県立熊本農業高等学校 養豚プロジェクト
大分県立大分商業高等学校 商業調査部
博多女子高等学校 地域共創部
長崎県立諫早農業高等学校 諫農生物工学部
大分県立大分工業高等学校 DAIKO水車プロジェクトチーム
福岡県公立古賀竟成館高等学校 家庭クラブ
福岡工業大学附属城東高等学校 科学部 生物班
佐賀県立鳥栖商業高等学校 鳥栖クローバープロジェクト・流通経済科
熊本県立宇土高等学校 不知火探検隊
長崎県立対馬高等学校 ユネスコスクール部
長崎県立諫早農業高等学校 食品科学部
鹿児島県立屋久島高等学校 屋久高発!屋久島お助け隊!
沖縄県立北部農林高等学校 エコ部



地方大会最優秀賞
熊本県立熊本農業高等学校



高校生が選ぶ特別賞
大分県立大分商業高等学校



審査委員特別賞
博多女子高等学校



先生が選ぶ特別賞
長崎県立諫早農業高等学校



協賛企業特別賞
大分県立大分工業高等学校



SDGs活動特別賞
福岡県公立古賀竟成館高等学校

第8回 全国ユース環境活動発表大会

全国の高校生の環境活動・SDGs活動一覧 全107団体

ほかの高校はどんな環境活動をしているんだろう？ SDGsの活動を始めたい。何か参考になる活動は？

今年も全国の高校から、「全国ユース環境活動発表大会」へのご応募をたくさんいただきました。
以下、全国107高校・団体が日頃から取り組んでいる環境活動、SDGs活動をご紹介します。

1 ユース情報誌

まずは、本誌以下の「活動一覧」をご覧ください。地方別に高校名、団体名、活動名を掲載しました。自分の高校の活動を発表するとともに、ほかの高校の活動事例を知るチャンスです。みなさまの活動のレベルアップ、高校生同士や地域との交流などの情報にお役立てください！

全国の高校生の環境活動・SDGs活動を、
YouTube・PDFでご覧いただけます。(一部高校を除く)

YouTubeで…



2 大会ホームページ

検索 第8回全国ユース環境活動発表大会 検索

① ホームページ内のこの画面を開いてください。



全国ユース環境活動発表大会 コンテンツ

それぞれのページをクリックしてください。詳しい情報をご覧いただけます。

地方大会

詳細はこちら

全国大会

詳細はこちら

活動高校
全国一覧

昨年の発表動画はこちら

全国ユース
環境ネットワーク

もう少しばらくお待ち下さい。

PDFで…



② 活動高校
全国一覧 のボタンをクリック！ **YouTube・PDF**でご覧いただけます。

北海道

5 団体

市立札幌開成中等教育学校
PlaCler

海洋プラスチックの再利用

北海道大野農業高等学校
ボランティア部・果樹専攻班

北斗市の里地里山の自然を守るために

北海道士幌高等学校
環境班

持続可能な地域環境を目指して
～次の100年へ、地域を守る防風林造成を～

北海道羽幌高等学校
SBFプロジェクトチーム

羽幌町に飛来する海鳥と今後の課題

北海道美幌高等学校
環境改善班

オホーツクの自然を守れ！
～世界へ広がる環境改善～

東北

21 団体

青森県立名久井農業高等学校
環境システム科 草花班

耐用年数を過ぎた太陽光パネル由来の
廃棄ガラスの有効利用に関する研究

青森県立名久井農業高等学校
環境研究班

美ら海を守れ
～沖縄の赤土流出抑制に挑戦～

青森県立むつ工業高等学校
設備・エネルギー科 地中熱融雪研究班

R4 課題研究
地中熱利用による融雪研究と農業

青森県立三本木農業恵拓高等学校
チーム・COW飼う'S

高オレイン酸ヒマワリ種子の飼料化プロジェクト
～高オレイン酸ヒマワリ栽培で景観改善と飼料生産の両立～

岩手県立花巻農業高等学校
ソーセージ研究班

サステナブルな地域創生児
～ホップの抗菌作用を活かした商品開発に関する研究～

岩手県立遠野緑峰高等学校
生産技術科 野菜・果樹研究班

エゴマの新たな有効活用
～商品開発から広がる地域貢献～

秋田県立新屋高等学校
理科研究部

在来生物の保全と外来生物の有効活用

秋田県立能代松陽高等学校
チーム松陽

自然エネルギー最大活用の研究
(雨水による水力発電)

秋田県立大館鳳鳴高等学校
化学部

地域森林資源の有効利用
～秋田白炭の活用に向けての取り組み～

秋田県立横手清陵学院高等学校
ブラウトラウト班

ブラウトラウトによる
横手川の生物への影響と利用価値を探る

秋田県立大曲農業高等学校
果樹部

超人対鳥獣
～地域資源を活用した忌避資材による果実保護の可能性～



応募高校一覧

たくさんのご応募をいただき
誠にありがとうございました。



宮城県多賀城高等学校

SS科学部ヤスデ班

マクラギヤスデの生息北限と
未知なる生態に迫るPart2

宮城学院中学校高等学校

自然科学班

サンショウウオ保護プロジェクト

宮城県志津川高等学校

自然科学部

松原海岸の生物調査

宮城県宮城第一高等学校

生物部クモ班

蜘蛛糸を未来へ

宮城県宮城第一高等学校

生物部クラゲ班

タマクラゲは再生できるのか
～胃の有無と再生～

宮城県農業高等学校

作物部門

#ZEROマイプラ2

山形県立米沢興譲館高等学校

CSS部生物班

山形県の魚類生態系の多様性を護れ! (コイ)

山形県立米沢興譲館高等学校

CSS部生物班

山形県の魚類生態系の多様性を護れ!
(メダカ)

山形県立村山産業高等学校

エンドファイト研究班

山形県立山形西高等学校

放課後実験倶楽部

小学生といっしょに在来メダカで環境学習

関東

15 団体

茨城県立緑岡高等学校

生物部

リサイクルガラス発泡資材を用いた
軽量化土壌による小麦の栽培

栃木県立矢板東高等学校

リベラルアーツ同好会

栃木のサメ食文化を守る
～文化を守る×環境を守る～

栃木県立真岡北陵高等学校

食品科学研究部

地域に眠る野菜たち
～野菜の利用価値を高めるために～

群馬県立尾瀬高等学校

理科部

自然を楽しむ
～自然の魅力で地域をつなぐ～

群馬県立藤岡北高等学校

環境工学部

小川の未来を考える
～地域連携・協働によるヤリタナゴ保護活動～

千葉県立安房高等学校

チーム あわわ

あまも復活への挑戦
with たてやま・海辺の鑑定団

専修大学松戸高等学校

理科部

ミルワームのプラスチックごみ
問題解決に向けて

東京都立国際高等学校

環境科学

国際高校から始めるSDGs

東京都立府中東高等学校

生物部

多摩川に増加する外来植物
アレチハナガサが昆虫に与える影響

晃華学園中学校高等学校

Banana to The Futures

バナナペーパーを普及するための
プロジェクト

東京都立南多摩中等教育学校

SDGsミーティング

CO₂CO₂減らそう 食事から

東京都立国分寺高等学校

生物部・カラスバト班

天然記念物カラスバトを研究と啓蒙で
絶滅から救う

静岡県立駿河総合高等学校

US

SDGsの目標達成に向けて
～私たちが暮らしやすい明日を地球希望で考える～

静岡県立三島北高等学校

STEM 植物班

廃棄食材を利用した肥料作り

オイスカ浜松国際高等学校

環境SDGsプロジェクト

地域参画型Eco-DRR 浜と松プロジェクト

中部

9 団体

福井県立福井商業高等学校

悩めるJRC部

海岸清掃をしていたらプラスチックごみの多さに
嫌気がして「脱プラスチック活動を始めました!」

福井県立大野高等学校

JRC「結」

ふるさとの水と繊維をシェアしたい
～「結」の心で地域を結ぶ～

福井県立若狭高等学校

箸プラ

海洋プラスチックごみが激変!
～箸に姿を変えて現状を伝える～

福井県立若狭高等学校

魚の鱗探究チーム

魚の鱗の再利用～鱗を用いた肥料の作成～

長野県佐久平総合技術高等学校

チームさくさけ

カスを価値に!
～未来へ佐久酒粕プロジェクト～

長野県上伊那農業高等学校

昆虫班

持続可能な河川生態の保全と利用を目指して
～伊那谷の伝統食「ござ虫」を未来へつなぐ～



第8回 全国ユース環境活動発表大会

岐阜県立八百津高等学校
自然科学部・SDGs班
アメリカザリガニから学ぶSDGsII

愛知県立佐屋高等学校
科学部
愛知県愛西市内用水路に生きるカメ類

愛知県立半田商業高等学校
Total Progress
地球の救世主!? エシカルな食材「ココロギ」
で未来の地球を考えよう!

近畿 19 団体

福知山成美高等学校
GO!YA!
食品ロスゼロで世界を平和に

福知山成美高等学校
Kimくん
フードロス削減

福知山成美高等学校
チーズ टीम
若者と共に福知山を潤そう!

福知山成美高等学校
SWIMMER
漫画で脱☆男女差別

京都府立宮津天橋高等学校
タンポポ発信隊
足元の小さな花が教えてくれたこと
～里の春を彩るタンポポ～

大阪成蹊女子高等学校
生徒会執行部
SDGs=Seikei Dream Ginormous
～成蹊の夢はめっちゃデカい!～

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程
エコ・プロジェクト部
脱炭素!地球温暖化防止プロジェクト

大阪府立豊中高等学校能勢分校
チーム SATOYAMA
E-bikeプロジェクト
～めざせ! ZEROカーボンスクール～

大阪府立長尾高等学校
理科研究部 マイクロスケール実験開発チーム
マイクロスケール実験の開発

大阪府立みどり清朋高等学校
地域貢献部
地域から世界へアドプト・リバー・プログラム

大阪府立富田林高等学校
水質班
河川の自然浄化と水流との関係について

兵庫県立豊岡総合高等学校
インターアクトクラブ
海とわたしたち

兵庫県立伊川谷高等学校
ボランティア部
人形劇で伝えるSDGs
～地域の子どもたちとともに考える未来～

兵庫県立篠山東雲高等学校
自然科学部
篠山城堀の生物調査

兵庫県立播磨農業高等学校
オオヤマジソ班
オオヤマジソの持続可能な保全に向けた
商品開発

親和女子高等学校
探究15班
プロジェクトC～私達に出来ること～

親和女子高等学校
MASK
環境に良いマスク

高校生エシカル推進委員会
高校生エシカル推進委員会
気候変動×楽しさ
～私たちが行動する意味～

奈良育英高等学校
生徒会・ユネスコ委員会
環境問題は深い! ぱーと2

中国 12 団体

岡山県立笠岡高等学校
サイエンス部
未来を切り拓く!
～豊かな海を守るため今、私達ができること～

岡山県立玉野高等学校
海ごみ再利用研究チーム
海ごみとして回収された発泡ポリスチレンを
固体燃料に用いたハイブリッドロケットの開発

岡山学芸館高等学校
結
アマモ実生本葉展開条件の研究
～大人になれなかったもやし達～

岡山県立岡山一宮高等学校
ユネスコ部
ドギーバッグ フードロス削減への鍵

岡山県立岡山一宮高等学校
チーム階段
高校のユニバーサルデザイン化への取り組み

岡山県立倉敷青陵高等学校
生徒会執行部
SDGs達成・地域協力・地元企業連携
～「今」私達ができること～

出雲西高等学校
インターアクトクラブ
出雲西高発!!「水環境改善プロジェクト」

広島県立祇園北高等学校
理数コース
祇園北高校における環境活動の効率化

広島県立祇園北高等学校
科学部
本校がモリアオガエルの保護区になることを
目指して

応募高校一覧

たくさんのご応募をいただき
誠にありがとうございました。



山口県立下関西高等学校
化学2班
カイロを変える!!

山口県立下関西高等学校
公民班
下関市風力発電導入大作戦
～脱炭素社会の実現に向けて～

山口県立下関西高等学校
化学1班
悪臭撲滅委員会

四国

7 団体

香川県立多度津高等学校
建築科
木を生かし、森を守る
～地元の木材を使った、私たちの取り組み～

徳島県立徳島商業高等学校
校内模擬会社ComCom
未来につながる環境ビジネス
～教育DXで持続可能な社会の実現～

愛媛県立長浜高等学校
チーム530
カワイのぼり旗でゴミを減らそう!
えひめゴミ0プロジェクト

愛媛県立松山北高等学校
愛顔グローバル部愛Landまつやま(興居島VT)
愛顔グローバル部愛Land
まつやま環境保全プロジェクト

愛媛県立土居高等学校
情報科学部・ビジネスコース
盆栽のユネスコ世界遺産登録を目指す街づくり
～環境保全と地域創生の両立～

愛媛大学附属高等学校
理科部プラガールズ
瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の実態
と対策に向けた啓発活動

愛媛県立小松高等学校
Y S T
なぜば成る ～エコの神髄ここにあり～

九州・沖縄

19 団体

福岡工業大学附属城東高等学校
科学部 生物班
博多湾におけるアマモのより良い移植法の検討

博多女子高等学校
地域共創部
糸島の牡蠣をカッコづけよう!

福岡県公立古賀竟成館高等学校
家庭クラブ
SDGs 万華鏡"KAGUYA" プロジェクト

大分県立大分商業高等学校
商業調査部
食品ロスさせない連携
～規格外トマトを活用した商品開発～

大分県立大分工業高等学校
DAIKO水車プロジェクトチーム
脱炭素を図りながら、再生可能エネルギーで、
通学路の夜道を照らす取り組み

佐賀県立鳥栖商業高等学校
鳥栖クローバープロジェクト・流通経済科
自然環境の保全とサステナビリティな社会
構築にむけて地域課題への取組

熊本県立熊本農業高等学校
養豚プロジェクト
廃棄豚脂の有効活用に関する研究
～養豚業におけるゼロエミッションへの挑戦～

熊本県立宇土高等学校
不知火探検隊
不知火(しらぬい) のことを知ってるかい?
～不知火研究から見た環境変化～

長崎県立松浦高等学校
まつナビ8班
SASTAINABLE×松浦

長崎県立佐世保西高等学校
佐世保西24班
カラスとの共生に向けて

長崎県立佐世保西高等学校
H&M
ランドセルリメイク

長崎県立佐世保西高等学校
5K
脱プラ作戦

長崎県立対馬高等学校
ユネスコスクール部
「国境の島・対馬」からの挑戦!

長崎県立諫早農業高等学校
食品科学部
自然環境改善をめざした継続的取り組み
～放置竹林の再利用と普及～

長崎県立諫早農業高等学校
諫農生物工学部
フードロスニュートラル活動でつないだ離島との想い
～食品ロス0なサステナブル社会を目指して～

鹿児島県立霧島高等学校
ESD研究班
浮かぶボールの工作体験提供

鹿児島県立屋久島高等学校
屋久高発! 屋久島お助け隊!
GO!新地域循環型経済社会へ
～食品廃棄物ビジネスの創出とSDGs啓発イベント実施への取組～

鹿児島県立情報高等学校
トビタテ18期生
e-prepから世界へ! SDGsやってみっが

沖縄県立北部農林高等学校
エコ部
日本の春はここから始まる!北濃プロジェクト

全国の高校生の環境活動・SDGs活動は、[YouTube](#)・[PDF](#)でご覧いただけます。
(一部高校を除く)

第8回全国ユース環境活動発表大会 [検索](#)



[活動高校
全国一覧](#)



の画面をクリック!





キリンホールディングス

法政大学国際高等学校

エコ・アクション・プロジェクトチーム



研修後の記念写真

2022年11月24日(木)、法政大学国際高等学校の生徒4名が高校生企業環境研修に参加。神奈川県横浜市鶴見区にあるキリンホールディングスのパッケージイノベーション研究所を視察し、企業の環境保全などの取組を学びました。

企業研修のテーマ キリンホールディングス パッケージイノベーション研究所

パッケージからイノベーションを起こす

パッケージはあらゆる商品に使われています。商品を手にとったとき最初に触れる部分であり、物流工程や店頭で衝撃や気温変化から商品の中身を守る重要な役割も担っています。一方で近年では、プラスチック容器による海洋汚染などパッケージを取り巻く社会課題も顕在化しています。パッケージに変革を起こすことで人々にあたらしい価値を提供するとともに、社会課題を解決する。それがパッケージイノベーション研究所のミッションです。



パッケージイノベーション研究所

研修を終えて キリンホールディングスご担当者からのメッセージ

今回の研修での率直な感想

日頃購入いただいているキリングループ商品のパッケージに関する工夫や省資源化・リサイクルの取り組みをご説明し、ほんのわずかな材料使用量削減が、資源枯渇のセーブや温室効果ガスの削減に大きく寄与していることを理解いただきました。

今回、お客様の視点に最も近く、環境に対する意識の高い高校生のみなさんと意見交換ができて、我々の今後の容器やリサイクル技術の開発に生きるアイデアをいただけたこと、今後の高校生のみなさんの環境課題に対する取り組みのメインをわずかながらでも高められたことは、今回の受け入れを通じて非常に光栄な機会を頂戴できたと感じています。このような機会を増やして、キリングループならびに社会に貢献する研究所として、今後も広く活動していきたいと思っております。



パッケージの説明



講師
大久保辰則さん

研修を終えて 法政大学国際高等学校 高校生の感想 (抜粋)

お客様のニーズに最大限に応えながらも、真摯に環境問題に取り組む企業の方々にすごく憧れを持ちました。



研修の様子



竹村一都さん

「環境を考える」。この言葉にこの日ほど熱意と重みを感じたことはありません。ペットボトルのどの部分をとっても軽量化に伴う資源の節約の工夫が詰め込まれているというお話を聞いて、自分達の活動でもまだまだ工夫できる箇所があるのではないかと、新たに目標が出来ました。



岡田真奈さん

今回の企業研修で、資源の削減やリサイクルについて関心を持ちました。梱包の角を落とすなどの少しの工夫で、膨大な量の資源を削減することができるというのは本当に驚きでした。工夫と努力でペットボトルも100%リサイクルできるということを、広く伝えていきたいと思っております。



川原田晴美さん

飲料メーカーが、ペットボトルの開発まで手がけていることを知り、非常に驚きました。「ケミカルリサイクル」は、新品同様に使用できる点に大きな可能性を感じました。「プラスチックは使い次第で資源にもなる」ということを、私たちが広めていきたいと思っております。



佐藤風作さん

紙の使用量を削減したパッケージを見た際、強度計算やデザインなど、あらゆる面で最善を尽くしてパッケージが開発されていることを学びました。それにより削減される紙の量は数パーセント。しかしその努力が地球の未来を変えようと思うと、胸が熱くなりました。

キリンホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。



ストップ! 20歳未満飲酒・飲酒運転。
のんだあとはリサイクル。





SGホールディングス株式会社

Grow the new Story.
新しい世界で、新しい社会を、共に育む。

日本のCO₂排出量のうち、自家用車を含む運輸部門の排出量は約18%^{*}を占め、その影響は大きいと認識しています。運輸部門に含まれる旅客や貨物の輸送は、多くの産業や日常生活に深く関わる機能であり、脱炭素社会の実現に向けて輸送における排出削減は重要です。当社グループは総合物流事業を展開し、多くの貨物自動車を使用しています。物流という社会インフラを担う企業グループとして、脱炭素社会に向けた取り組みは責務であると認識し、世界的な喫緊の課題である地球温暖化防止への対策をこれまで以上に強化すべきであると捉えています。ステークホルダーの皆さまとも協力しながら、サプライチェーン全体での排出削減に取り組みます。

※国土交通省ウェブサイト「運輸部門における二酸化炭素排出」参照、数値は2019年度の実績

SGホールディングスグループ 脱炭素ビジョン

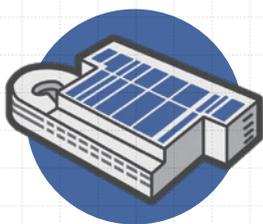
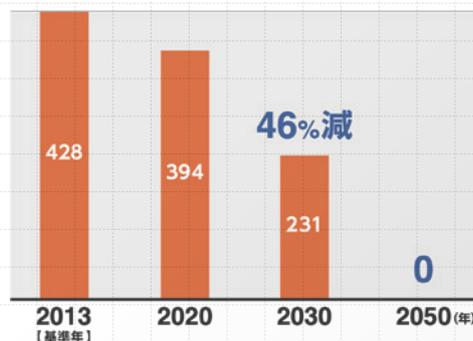
SGホールディングスグループは、ステークホルダーの皆さまとともに、脱炭素社会の実現に向けた取り組みを進めてまいります。

- 1 車両から排出される温室効果ガスの削減
- 2 再生可能エネルギー由来の電気の使用推進
- 3 サプライチェーン全体での排出削減

排出削減目標

- 2030年までにCO₂排出量46%減 (2013年度比)
- 2050年までのカーボンニュートラル (いずれもスコープ1・2が対象)

CO₂換算排出量 (千t-CO₂)



脱炭素への主な取り組み

環境対応車の導入

保有車両に占めるEVやハイブリッドトラックなどの環境対応車の割合を、2021年度の59%から、2030年度には98%に。

配送に特化したEVの開発に着手



再生可能エネルギーの活用

全国の保有施設約100ヶ所に太陽光発電設備を設置し、電力会社への電力供給や自家消費を行っています。

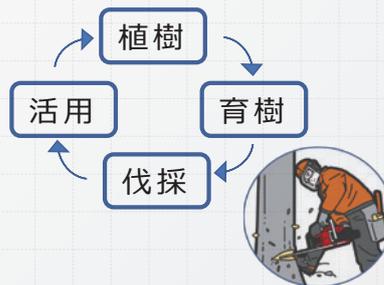
SGリアルティ東大阪



森林保全

高知・徳島両県に7つの山林を所有し、地元森林組合の協力を得ながら管理。植樹から木材活用までを循環させる仕組みづくりを実施しています。

森林サイクル



SGホールディングスは、ユースの環境活動を応援しています。



KYOEI 協栄産業株式会社

茨城県立緑岡高等学校 生物部

2023年1月21日(土)、茨城県立緑岡高等学校・生物部の生徒4名が高校生企業環境研修に参加。茨城県笠間市にある協栄産業グループ ジャパンテック株式会社・東日本PETボトルMRセンターを視察し、ペットボトルリサイクルについて学びました。



研修後の記念写真

協栄産業 研修内容

ペットボトルの水平リサイクルで
カーボンニュートラルと持続可能な社会の実現に貢献します

協栄産業グループでは、不純物を徹底的に取り除くと同時に物性の回復を実現するメカニカルリサイクル技術を独自開発し、これまで不可能とされてきた使用済みペットボトルからももう一度ペットボトルへと生まれ変わらせる『ボトルtoボトル水平リサイクル』を2011年に日本で初めて実現しました。石油由来のPET樹脂と同等の品質を有する再生PET樹脂製造が可能となり、石油由来樹脂からの製造時と比較してCO2排出量を約63%も削減できることから、弊社の再生PET樹脂が採用されたペットボトルは現在多くの清涼飲料水に使用されています。そして2018年には、大手飲料メーカーと協働で『FtoP*ダイレクトリサイクル技術』の開発に世界で初めて成功しました。PETフレークから直接ペットボトルの原型となるプリフォームの製造が可能となり、製造・輸送など多くの工程が必要だった従来の再生法と比較し、CO2排出量を約70%も削減することができます。

ペットボトルリサイクルは誰でも取り組みやすいSDGs活動であり、弊社は特に5つの達成目標に大きく貢献できると考えています。同じ用途で繰り返し利用することができる『ボトルtoボトル水平リサイクル』の取り組みでは、環境負荷の低減や持続可能な社会の貢献に優れています。今後もステークホルダーの皆さまのご協力を賜りながら、カーボンニュートラルと持続可能な社会の実現に向け貢献してまいります。

※フレークto プリフォーム



ペットボトルリサイクルで貢献する5つのSDGs

小さなことからできること

天然資源が少ない日本において、ペットボトルを国内循環することは、石油資源の利用抑制や地球温暖化の防止だけでなく、海洋ゴミの流出防止にもつながります。飲み終わった後に、ラベル・キャップを外し、中を軽くすすぐことで、その後の再生PET樹脂の品質が向上し、再びペットボトルとして生まれ変わることができます。地球環境を守り、限りある資源を未来に残していくためにも、ご協力をよろしくお願いいたします。



茨城県立緑岡高等学校 研修風景

茨城県立緑岡高等学校 高校生の感想

2年 那須 雄飛 さん



私はこれまでペットボトルリサイクルは簡単だと思っていました。ですが、今回の工場見学で古澤社長が溶かしてもとの形に戻すだけでなく、耐久性が下がるためアンチエイジング処理をしなければならないと仰っていたのを聞いたことで身近で行われているペットボトルリサイクルは決して簡単なものではないことを初めて知りました。これからは、ペットボトルリサイクルに熟意をもって取り組んでいる皆さんに恥じないように生活したいです。

2年 平沼 悠輝 さん



私は以前、リサイクルでは廃棄物を別の物へと変える事が重要だと思っていました。しかし古澤さんが仰っていた、ボトルを服に変えるだけでは、ただ廃棄するまでの期間が伸びただけで、根本的解決にはならないというお話を聞き、本質に気付かされました。また今回の研修では、BtoBという原因療法となる技術の、理論から実用化までの困難と努力を知りました。私達も研究する身として、困難にも挫けぬよう頑張りたいです。

1年 森尻 彩名 さん



今回見学させていただいた中で、「リサイクルをすることで国の資源を長く使えるようになり、資源の奪い合いが多発している昨今、国同士での争いに勝つことができる」というお話が印象に残っています。リサイクルを政治的な面で考えたことはなかったため、非常に勉強になりました。また、ペレットにしないでボトルにするという方法を新たに開発されたこと伺い、リサイクルのこれからの可能性を感じ、より一層興味がわきました。

2年 清原 慧悟 さん



この研修で印象に残ったのはリサイクルと経済との関係についてです。まず、中国に資源ごみを売っていたときのことを聞き、国外に頼りきるリスクに恐怖しましたが、リサイクルはお金にならず企業は非協力的だろうという先入観があり、国内だけで解決することは難しいと思いました。しかし、実際にリサイクル製品が利益を生んでいることや、FtoPダイレクトリサイクルによりコストを削減していることに、目の前が明るくなりました。

協栄産業は、ユースの環境活動を応援しています。



TANITA タニタ

東京都立国際高等学校

2022年11月20日(日)、東京都立国際高等学校の生徒5名が企業SDGs研修に参加しました。研修先は「タニタ」。タニタが主体となって推進する「ご当地タニタごはんコンテスト」を視察し、一般審査員も担当。タニタが取り組む「健康」、「食」、「SDGs」について学びました。



東京都立国際高等学校のみなさん
コンテストの一般審査員も担当しました！

『第5回ご当地タニタごはんコンテスト』～ヘルシー郷土料理で健康まちおこし～

ご当地
**タニタごはん
コンテスト**
ヘルシー郷土料理で健康まちおこし

2022年に5回目を迎えた「ご当地タニタごはんコンテスト」。全国の郷土料理を「タニタが考える健康的な食事の目安」に基づき現代風にアレンジ。安全・安心かつ健康的な「食」のソリューションとして再生します。目的は郷土料理の継承とともに、新しい地域の特産品として広く認知・普及させ、地域の活性化に結び付けること。今回は、時世を反映し「免疫力と抵抗力」のある食材をバランスよく配することを課題として盛り込みました。

コンセプト ① 郷土料理の継承 ② 人材育成 ③ 地域活性化



全国から84チームが応募!

『第5回ご当地タニタごはんコンテスト』表彰 (料理抜粋)

👑 **グランプリ**

岡山



黄ニラ香る贅沢おかやまばら寿司等

👑 **準グランプリ**

兵庫



東経135° 瀬戸内海パエリア等

👑 **準グランプリ**

鹿児島



黒豚とんこつ colorful 野菜添え等

👑 **第5回特別賞**

北海道



どさんこ満足御膳

タニタ × 高校生企業SDGs研修 (東京都立国際高等学校)



SDGs研修の様子

企業研修 (SDGs趣旨説明)

「ご当地タニタごはんコンテスト」の目的は、郷土料理の継承。まさにSDGsです。郷土の風土、歴史、伝統、地場産業に支えられ、地域独特の料理を楽しめます。また今年は、「健康」に加え「免疫力と抵抗力」もテーマにしました。参加チームの中には、「食品ロス」対策を掲げる方もいます。高校生のみなさんも、未来につながる郷土料理をぜひ地元の方々と一緒に考えてください。



講師) タニタ 猪野正浩さん

SDGs研修に参加して(高校生の感想)

沓澤 空来 さん

SDGs研修では、2000年にMDGsという目標が定められ、そこでの目標は2015年のSDGsにも引き継がれている、つまり、15年間で目標は達成されなかったということを知りました。驚きと2030年までのSDGsの達成に危機感を感じました。大会では、日本の郷土料理は地域の土地や気候、歴史や食べる人の健康など、様々な事が考え尽くされたものだと感じ、より多くの人にこの事を知ってもらいたいと思いました。



千田 佳怜 さん

私がSDGs研修を通して学んだことは主に2つあります。1つ目は、SDGsの17個のゴールは互いに繋がっていることです。繋がっているからこそSDGsの達成は容易ではないと思いますが、達成すれば、他のゴールにも良い影響が与えられるということでもあると思いました。2つ目にMDGsの存在です。自分がまだまだSDGsの背景を知らないことに気が付くことができたと同時に、もっと学ばなければいけないという風に感じました。企業の方からお話を聞くという貴重な経験が出来て他にも多くのことを学びました。ありがとうございました。



大工原 舞香 さん

形を変えつつも日本の古き良き伝統を現代に引き継いでいる、郷土料理はとても魅力的だと感じました。地産地消や食材を余す事なく使うといった昔の人々の知恵や工夫には、フードロスの様な現代の問題解決のヒントが潜んでいると思いました。また、栄養バランスが良くヘルシーな日本食は健康と福祉に繋がるなど、私たちの日々の生活とSDGsを結びつけて考えていきたいです。



前田 幸芽 さん

高校に入って、日ごろからSDGsと関わる機会は増えたのですが、今回は実際に体験できたという意味でいつもとは違うような面白さを感じることができました。日本全国のたくさんの郷土料理を楽しめたと同時に各地域の様々な文化を学ぶことができとてもいい経験になりました。今回の経験を生かせるように、これからの活動も頑張っていきたいです。ありがとうございました。



藤野 日葵 さん

どの参加者の皆さんも自分が生まれ育った地をどれほど大切にしているかということがよく伝わってきました。今食が洋風化されてきて伝統料理が食卓に並ぶことも少なくなってきましたが、昔からの味を未来の世代へつなげていくことと同時に伝統料理から新たに新しい味が生まれる良さがあると思います。これもまた持続可能な社会を築き上げる一つの貢献だと思います。



タニタは、ユースの環境活動を応援しています。

全国大学生環境活動団体SDGsミーティングが開催されました。

日程 2022年11月19日(土) 14:00~16:00

会場 オンライン開催

主催 独立行政法人環境再生保全機構 全国ユース環境ネットワーク

共催 全国大学生環境活動コンテスト実行委員会事務局



〈全国大学生環境活動団体SDGsミーティング〉とは…

環境活動に取り組む大学生の団体がオンラインで集まり、情報交換を通じて交流を深めるミーティング。

今回は、キタサンショウウオ研究会(東京農業大学オホーツクキャンパス)、学生団体FeeLink(近畿大学)、エコFIT(福岡工業大学)の3団体が参加。

今回のミーティングでは、参加団体の活動、参加者自身の今後の活動や

日常生活とSDGsとの関わり方を確認し、持続可能な社会について改めて考える機会になりました。また今回はこれから新たに発足する団体も参加し、大学生の環境活動団体の在り方についても議論がなされました。



参加団体紹介

▶ キタサンショウウオ研究会 (東京農業大学 北海道オホーツクキャンパス)

東京農業大学北海道オホーツクキャンパスの有志を中心に結成され、来年正式に団体設立予定。

釧路湿原に生息している天然記念物「キタサンショウウオ」の生態保護、保全、PR活動、新たな生息地の調査を行っている。

▶ 学生団体FeeLink (近畿大学農学部)

「人と環境の架け橋」になることをキーワードに、大学・NPO法人・企業と連携しながら活動をしている。

「環境教育」、「教材園」、「ビオトープコーディネート(BCP)」の3つのプロジェクトに分かれ、様々な視点から環境活動に取り組んでいる。環境教育・保全活動を通して、小学生やその両親向けに環境問題の啓発に尽力している。

▶ エコFIT (福岡工業大学)

福岡工業大学の社会環境学部の教育理念に基づいて運営する学生組織。

ペットボトルのキャップ回収活動を通じたポリオワクチンの寄付活動や、音楽フェスでのごみ回収ボランティアへの参加、環境フェスティバル福岡でのワークショップ開催への参加など、様々な環境啓発活動へ取り組んでいる。

ミーティング内容

〈1〉情報共有 ~SDGsの目標を再確認~

情報共有(ミニセミナー)では、全国ユース環境ネットワーク事務局より事例紹介を行いました。1992年の地球サミットからどのような流れでSDGsの考えが生まれ、これからどのように環境問題やSDGsについて考えていくべきかを学びました。また、直近で開催されたラムサール条約第14回締約国会議についても情報の共有をしました。



〈2〉交流ミーティング

交流ミーティングでは2つのグループに分かれ、前半の情報共有(ミニセミナー)を受けた感想や、関心のある最近の環境問題、どのような想いで現在環境活動に取り組んでいるのか、今後取り組みたい環境活動などをテーマに、参加者自身や団体のこれまでの活動等を振り返りながら意見交換をしました。





参加大学生の意見

グループ①の意見

- ◆ セヴァン・スズキのスピーチは、今の人が聞いても考えさせられるものであった。
- ◆ 自分たちの環境問題への無知さを知った。
- ◆ 意見交換を経て、今後の活動は他大学との連携や、自分たちの活動分野に関係する地元企業との連携をしていくという選択肢が見つかった。
- ◆ SDGsという言葉は近年たくさん耳にするが、開発と環境保護が乱立している。
- ◆ 「環境アセスメント」をしっかりとすることで、開発による環境への影響を調査することが重要だと思った。
- ◆ 環境問題と一口に言っても問題は多岐にわたっているので、「Think globally, Act locally」の考え方は重要だと考えた。広い視点を持ちつつ、できることから行動していきたい。

グループ②の意見

- ◆ サンショウウオの話を経験に、今後の保全活動をどのように行っていくべきかをグループ内で話し合った。
- ◆ 絶滅危惧種の周知方法については、他大学との連携や学園祭を通じた周知などを行いたいと思う。
- ◆ セヴァン・スズキのスピーチを聞いて、大切な生き物を人の手で絶滅させてしまうことはあってはならないことだし、身の回りの生き物を大切にすることが、持続可能な社会へとつながっていくと感じた。

まとめミーティング

まとめミーティングでは参加者全体で、交流ミーティングで話し合われたことの共有と全国の環境学生団体がどのように今後活動していくべきかの意見交換を行いました。



グループ①のまとめ

無関心層にアプローチするのは困難だが、「環境活動に関心はあるけれど、何をしたらよいかわからない」という層にターゲットを絞り活動を実施したいと感じた。時間やパワーがある学生団体が様々な団体とつながり、お互いの足りない部分を補い合えればよいと感じた。

グループ②のまとめ

普段は同じ生活圏内の大学や社会人としか関わる機会がないが、今回のSDGsミーティングで北海道、関西、九州の環境活動を行う大学生と意見交換ができたことがとても良かった。他のメンバーにも、今日の学んだことをシェアしていきたい。また、同じテーマを持つ他大学と交流する機会はあまりないので、今後はもっと積極的にこういった場を作っていきたい。

全国大学生環境活動コンテスト = エココン (ecocon) の紹介

全国大学生環境活動コンテスト (エココン) とは…

大学生の環境活動の活性化を通じた持続可能な社会の実現を目指し、学生ネットワークの形成、座談会 (交流会) の実施、年に1度の全国大学生環境活動コンテスト (通称: ecocon) を行っています。

ecoconは2003年より毎年開催しており、第18回までにのべ700団体以上、総勢1万人以上が参加するなど、学生の環境活動の中での役割を確立しています。独立行政法人環境再生保全機構は、全国大学生環境活動コンテスト (ecocon) を共催しています。



環境活動やSDGs活動をしている大学生サークルのみなさん!
ぜひ一度、エココンの事務局に連絡してみてください。

全国ユース環境ネットワーク事務局と全国大学生環境活動コンテスト実行委員会は、
大学生サークルの環境活動やSDGs活動を応援しています。

連絡先

▶ エココンについて

全国大学生環境活動コンテスト (エココン) 実行委員会事務局
tel: 03-5402-5355 mail: support@ecocon.info (株式会社ダイナックス都市環境研究所内)

▶ 全国大学生環境活動団体SDGsミーティングや大学生の活動全般について

全国ユース環境ネットワーク事務局
tel: 044-520-9505 mail: youth@erca.go.jp (独立行政法人環境再生保全機構)





HP & Youtube 案内



1 ユース情報誌

まずは、本誌以下の「活動一覧」をご覧ください。地方別に高校名、団体名、活動名を掲載しました。自分の高校の活動を発表するとともに、ほかの高校の活動事例を知るチャンスです。みなさまの活動のレベルアップ、高校生同士や地域との交流などの情報にお役立てください!

全国の高校生の環境活動・SDGs活動を、
YouTube・PDFでご覧いただけます。(一部高校を除く)

YouTubeで...



2 大会ホームページ

検索 第8回全国ユース環境活動発表大会 検索

① ホームページ内のこの画面を開いてください。



全国ユース環境活動発表大会 コンテンツ

それぞれのページをクリックしてください。詳しい情報をご覧いただけます。

地方大会

詳細はこちらから

全国大会

詳細はこちらから

活動高校
全国一覧

昨年の発表動画はこちら

全国ユース
環境ネットワーク

もうしばらくお待ち下さい。

PDFで...



② 活動高校 全国一覧 のボタンをクリック! YouTube・PDFでご覧いただけます。

事務局より

第8回全国ユース環境活動発表大会を終えて

全国ユース環境ネットワーク事務局です。皆様のご協力により、3年ぶりに会場で実施した第8回全国ユース環境活動発表大会を終えることができました。ご応募いただいた全ての高校生の皆さん、先生方に、心より御礼申し上げます。今後も環境活動を継続し、次回の大会にもご応募いただきますよう、お願いいたします!

ここでは全国大会に出場した2校をピックアップして、環境活動の紹介をさせていただきます。

長野県佐久平総合技術高等学校 チームさくさけ

「酒の郷」と言われる長野県佐久市で、日本酒造りに際して出る酒粕の一部が廃棄されているという課題に対し、酒粕の需要拡大と食品ロス削減のためにさまざまな活動に取り組んでいます。今年度は、地元ラーメン店とコラボして酒粕を使ったラーメンを開発。地域のお店と協力しながら酒粕の魅力や食品ロス問題を発信した素晴らしい活動でした。



愛媛大学附属高等学校 理科部プラガールズ

地元の漁業や農業に由来する産業系プラスチック汚染の課題に対し、瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の実態調査や、海洋生分解性プラスチックの開発・普及活動に取り組んでいます。2050年には全質量が海洋生物の全体重を超えと言われる海洋プラごみの問題に着目し、外部機関と連携しながら意欲的に活動している姿が印象的でした。



たくさんのご応募、ありがとうございました!
次回の大会もよろしくお願いいたします!



全国ユース環境ネットワーク事務局

〈主催〉全国ユース環境活動発表大会 実行委員会 (環境省/独立行政法人環境再生保全機構/国連大学サステナビリティ高等研究所)
 〈後援〉読売新聞社
 〈協賛〉キリンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、株式会社タニタ

私たちは、ユースの
環境活動を応援しています。

